全国結核予防婦人会だより

発行●社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-3-12　TEL03-3292-9211

2009.7
No.96

２００９年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪

健康日本21

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局（結核予防会普及課内）　題字●初代会長　廣瀬勝代　カット●佐藤奈津江

第60回結核予防全国大会開催

平成21年３月17日・18日、東京千代田区のホテルニューオータニにおいて、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、秋篠宮妃殿下のご臨席の下に第60回結核予防全国大会が開催されました。

今年は、結核予防会創立70周年記念の大会にあたり、天皇陛下よりお言葉を賜りました。

また、同大会で秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われ、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下より賞状が授与されました。

（天皇陛下お言葉　２ページ）

第13回結核予防関係婦人団体中央講習会開催

平成21年２月18日･19日の２日間、東京都目黒区の「こまばエミナース」にて、第13回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。今年も結核予防会総裁秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、各種講演、歌、各班に分かれての情報交換会と、濃密で充実した内容でした。全国各地からお集まりいただいた109名の参加者の皆さんはともに結核のこと、国際協力のこと、呼吸器疾患のこと、生活習慣病のことを学びました。

（秋篠宮妃殿下お言葉　２ページ）

天皇陛下お言葉

平成二十一年三月十八日(水)　ホテルニューオータニ
財団法人結核予防会創立七十周年記念
第六十回結核予防全国大会

財団法人結核予防会創立70周年記念第60回結核予防全国大会式典に当たり、日ごろ、結核予防事業に尽くされている関係者と一堂に会することを喜ばしく思います。

結核予防会が創立された70年前、結核は国内で著しくまん延し、国民病とも呼ばれていました。その猛威から人々を救うことを使命としてこの会は設立されました。しかし、そのころは特効薬もなく、結核を患っていた人々の不安と苦しみ、医療に従事していた人々の労苦は、今日では想像することも難しいようなものであったと思います。

戦後、ストレプトマイシンを始めとする特効薬の開発やレントゲン検査などの診断技術の普及により、結核をめぐる状況は、急速に改善されました。私自身、かつてストレプトマイシンやヒドラジッドなどの新薬の恩恵に浴したものの一人です。そして、結核予防会を始めとする多くの関係者が、協力して結核予防を推進し、その結果、結核による死者の数は著しく減少しました。また、その過程で培われた経験や知識をいかして、世界の国々の結核対策支援にも尽力してきました。こうした関係者の努力に対し、深く敬意を表します。

しかし、近年、国内において、新しい問題が生じています。患者の高齢化が進み、また、都市部を中心に、若い人々や社会的、経済的に弱い立場にある人々の間で、感染者が目立っています。さらに、治療が難しいとされる多剤耐性結核も見られ、それぞれに適切な対応が求められています。一方、世界においても、結核は、エイズやマラリアと並ぶ深刻な感染症であり、開発途上国を中心として、毎年、多くの人々が亡くなっています。今日、このような結核の現状を認識し、結核予防の重要性に人々が理解を深めることは極めて大切なことと思います。

本大会を契機として、関係者が一層力を合わせ結核予防事業に取り組み、人々の健康のために力を尽くされることを願い、式典に寄せる言葉といたします。

結核予防会総裁秋篠宮妃殿下お言葉

平成二十一年二月十八日(水)　こまばエミナース
第十三回結核予防関係婦人団体中央講習会

本日、第十三回結核予防関係婦人団体中央講習会の開講式にあたり、日頃から、熱心に結核予防活動を進めておられる皆さまに、お会いすることができましたことを大変うれしく思います。

結核はかつてわが国において、多くの尊い命を奪い、未来ある人々の将来への希望に立ちはだかった「国民病」でした。結核は決して過去の病気ではなく、特にアジアやアフリカにおいては主要な感染症として、今日も猛威を振るい続けて、これらの国々における経済的貧困の大きな要因のひとつになっています。また、わが国も、依然として中蔓延国に位置します。

わが国は、戦前から戦後にかけて半世紀以上にわたり、結核対策を通して公衆衛生を向上させ、世界から高く評価される保健システムと医療基盤を築き上げて参りました。この経験はいま、わが国からの技術や人材の支援という形で、アジア地域での感染罹患率や死亡率の改善に大きく貢献しております。そして今後は、この経験をさらに生かして、HIV／エイズとの二重感染などを含む結核の蔓延が深刻化しているサハラ以南のアフリカ地域に対しても、暖かい手を広く差し伸べていくことが、世界から求められています。

このように、わが国の結核国際協力事業の推進に対する期待が高まっている中、昨年七月には、国際連合大学で開催された「国際結核シンポジウム」におきまして、婦人会の方々が活発に討議に参加されたことを誠に喜ばしく思います。

婦人会はこれまで、結核予防を中心として、公衆衛生に関わるさまざまな活動に力を尽くしてこられました。今後も婦人会の皆さまが、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本とともに手を携えて、国内外の結核撲滅のために活動を続けることはもちろん、今までの経験、知識、人材、組織を活かし、呼吸器疾患対策や生活習慣病対策にも活躍の場を広げられますことを期待しております。

皆さまが、本講習会の成果をそれぞれの地域の活動に十分に活かされ、人々が健康で明るく暮らすことが出来ますよう心から願い、開講式によせる言葉といたします。

財団法人結核予防会創立70周年記念

❖第60回結核予防全国大会❖

定時総会・新役員紹介

☆ 平成21年度定時総会
及び懇談会開催 ☆

本年度の全国結核予防婦人団体連絡協議会総会は、３月17日午前10時40分から、東京千代田区のホテルニューオータニ舞の間において、43団体（欠席５）の」代表者参集のもと、開催されました。

会議では、中畔会長が議長となり、⑴平成二十年度事業報告・収支決算・⑵平成21年度事業計画案・収支予算案について、⑶役員の選任について、山下理事からそれぞれ報告、説明、審議が行われ、承認決議されました。決議された事業計画の概要は後述のとおりです。（８ページ参照）

また、午後５時10分からは秋篠宮妃殿下を囲んでの懇談会が開かれ、妃殿下は地域ごとのテーブルをお回りになり、なごやかなひとときを過ごされました。（妃殿下ご動静参照）

その後、妃殿下を囲んで写真撮影が行われました。

18日、ホテルニューオータニにおいて天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、秋篠宮妃殿下のご臨席の下に、第60回結核予防全国大会式典が開催され、東京都地域婦人団体連盟長田三紀事務局次長から宣言文が発表されました。また、同大会で秩父宮妃記念結核予防功労賞第12回受賞者表彰式が行われ、２団体３名が受賞しました。（７ページ記事参照）

新役員（敬称略）

【理事】

齋藤　芳子	（北海道）	再任
向井　麗子	（青森県）	新任
三浦　絢子	（宮城県）	再任
米窪千加代	（長野県）	再任
大塚　満子	（千葉県）	再任
岩田　繁子	（富山県）	再任
平松サナエ	（愛知県）	再任
中畔都舎子	（京都府）	再任
中野　璋代	（滋賀県）	再任
井勝　道子	（鳥取県）	新任
山本アツ子	（愛媛県）	再任
木下　幸子	（福岡県）	再任
湯丸　ミヨ	（鹿児島県）	再任
山下　武子	（結核予防会）	再任

【幹事】

神田アヤ子	（新潟県）	再任
藤本　貴子	（岡山県）	再任

東京都地域婦人団体連盟
会長　川島　霞子

財団法人結核予防会創立70周年記念第60回結核予防全国大会が３月17・18の両日、ホテルニューオータニで開催されました。

『結核のない世界』をめざす研鑽集会と記念講演・式典が行われ、全国結核予防婦人会総会が同時に開催されました。

大会は、総裁秋篠宮紀子妃殿下が終日出席され、18日の創立70周年式典には、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、天皇陛下からお言葉を賜りました。

日本はまだ結核中まん延国段階がつづき、私どもは今後ともその根絶のための努力を強めなければと、会員一同心に誓いました。

宣言文

日本の結核罹患率は初めて10万対20を切り、低まん延国化への大きな一歩を踏み出した。

しかしながら、我が国の結核を取り巻く状況は、合併症を伴う高齢患者の増加、大都市への集中化、外国人の患者割合の増加など、複雑化し質的な変化を呈している。

国内においては、科学的で実効性のある結核対策の充実に努めるとともに結核医療に対する診療報酬の早期適正化を求める。

世界に向けては、昨年７月に発表したストップ結核ジャパンアクションプランを確実に実施し、結核の制圧へ向け総力を挙げて取り組む。

さらに、特定健診・特定保健指導の推進や禁煙運動による肺がん、慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめとする呼吸器疾患対策をすすめ、国民に対する正しい知識の普及啓発に努め、人々が健康で明るい生涯を送れるよう組織一丸となって努力する。

以上、宣言する。

近頃の結核で思うこと

結核予防会
会長　青木 正和

私が若かった頃の結核患者は殆ど全部が若い人だった。誰でも親類や身近な人に１人や２人、結核患者がいた。それが今では、知人に結核患者を持つ人は殆どいない。「今でも１年間に２万５千人も患者が出ているんですよ」と言っても、自分とは関係のない人たちのことという感じである。

それが怖いところだ。咳や痰が出ても「かぜ」と考え、医者へは行かない。一般の人の関心が低いので国も自治体も結核を軽視しがちである。医師でさえもなかなか結核を疑わず、検査が遅れることもある。

本当は日本はまだ結核が少なくなく、先進国では最下位グループにいる。しかも、患者は高齢者や超高齢者に偏り、社会的な弱者に見られる場合が多い。今後、外国人が増えればこれらの人の結核も増えるだろう。結核ではないが、結核菌の仲間の抗酸菌で起こる「非結核性抗酸菌症」も最近は増えてきている。この病気は、結核と症状、X線所見などが殆ど変わらないので、鑑別が難しいし、治療も難しい。この病気が最近わが国ではかなり多く、10万対６くらいと菌陽性の結核罹患率に迫ってきている。女性、特に良い家の奥様にしばしば見られることも注目される。

最近はしばしば「結核のない世界へ」と言われる。然し、結核菌に感染すると２、３年の間発病しないでも、菌は肺などの細胞内で持続生残菌となって20年でも30年でも生き残り、抵抗力が弱まると増殖し発病することがある。このため、「結核のない国」とは本当は「結核既感染者」が１人も居なくなって初めて言える。これは100年や200年では不可能なので、「塗抹陽性肺結核罹患率が100万対１以下になったら結核の根絶と言う」という定義が普通使われている。わが国がこの定義の根絶の域に達するのは今のままでは2135年と計算されるのである。

「結核は昔の病気」などと軽く見ないで、特に結核予防婦人会の方々は本当のことをよく知って対応してほしいと思っている。

第60回結核予防全国大会 研鑽集会　セッションⅠ
「結核のない世界へ ―罹患率100万対１をめざして―」
研鑽集会に出演した梅園フジ子さんにインタビュー

聞き手：結核研究所
対策支援部長　小林 典子

今回の研鑽集会は、ある人形家族を通して「発病予防」「患者発見」「医療」の３点から10年後を見据えた結核対策を考えるという企画でした。この人形劇の登場人物で、家族の大黒柱である結核予防婦人会の会員「梅園フジ子さん」（写真）に話を聞きました。

Q．人形劇をご覧になった方から「楽しかった」という声が届いています。出演の人形のご紹介をお願いします。

A．皆さまに喜んでいただいてうれしく思います。ありがとうございました。今回、結核についてたくさんの知識を教えていただいたのは、私どもの家庭医である水道橋先生です。梅園家からは、息子の一郎、しっかり者の嫁のよし子、生後５ヶ月になる孫の太郎、そして私が出演しました。そうそう、孫の通訳を引き受けてくれた水道橋医院のペット、インコちゃんを忘れてはいけません。

Q．今回なぜ人形の皆さんが出演することになったのですか？

A．はい、今回の大会は結核予防会創立70周年に当たる記念大会ですから、予防会の行く末を託した内容になるよう関係者の皆様方で話し合われました。結核罹患率100万対１を目指すためにはこれまでの対策の延長ではなく、新しい提言が必要です。それを皆様にわかりやすく伝えるために、私たち人形の出番となりました。

Q．「台詞は前もって録音したのか」という問い合わせがありました。

A．いいえ、私達（クチパク人形）を動かしてくれた演者の皆さんは、同時に台詞も喋っていました。専門用語の多い台本でしたが、そこは若い学生さん方ですね。本当にすばらしかった！若い世代が結核問題に真剣に向き合ってくれたことを本当に心強く、そして頼もしく思います。

Q．今後の予定と抱負を聞かせてください。

A．先日、秋田県の婦人会からお声がかかりました。秋田弁での人形劇になるとか…楽しみです。結核研究所の石川先生のご紹介で、秋には新宿の皆さんと一緒に上演できそうです。これからも結核予防婦人会の会員として、お役に立ちたいと思っています。今回の研鑽集会のDVDができたそうです。私どもの熱演を是非ご覧くださいね。

❖写真で振り返る 第13回結核予防関係婦人団体中央講習会❖

平成21年２月18日～19日　こまばエミナース（東京都目黒区）

毎年、この時期の恒例になりました中央講習会が、下記のスケジュールで開催されました。

講習会のいくつかの場面を写真で振り返ってみたいと思います。

参加者の楽しい講義の様子

第１日目

午後２時より秋篠宮妃殿下ご臨席の下に開講式が開かれ、次いで結核予防婦人会についての講義がなされ、全国結核予防婦人会30周年記念DVDが上映されました。その後は、複十字シール運動について、体全体を使った楽しいワッハッハッ体操、結核について、の講義が行われました。

結核の日本の現状について語る小林氏

浅野氏によるワッハッハッ体操の指導

第２日目

早朝より午前中にかけて、東洋医学について、タバコ病（COPD）について、の講義がなされました。

「自分の健康は自分で作る」藤井氏の講演

また、昭和40年第１回結核予防関係婦人幹部講習会から、長年にわたり、ボランティア同様にご協力くださっているNHK「うたのおばさん」として親しまれた松田敏江（松田トシ）先生他による歌唱のプログラムももたれました。

松田敏江先生の楽しい歌の指導

午後には、結核の世界の現状について、結核のない世界へと題して国際協力についての講義がなされ、結核対策スタディツアーの記録DVDが上映されました。その後は、班に分かれて情報交換会が開かれ、各地の婦人会活動について活発に意見が交わされました。

積極的な発言が数多くでました

次いで終講式が行われ全員で蛍の光を斉唱し、講習会の最後を締めくくりました。

終講式では素晴らしい謝辞を述べて下さいました。

中央講習会スケジュール

2月18日（水）	2月19日（木）
開講式 14：00～14：30	**講演4** 8：30～9：30
・主催者挨拶　結核予防婦人会会長　中畔都舎子	～自分の健康は自分で作る～
・主催者挨拶　結核予防会会長　青木　正和	NPO法人いたごち専務理事　藤井　弘泰
・総裁お言葉　秋篠宮妃殿下	**講演5** 9：30～10：30
・来賓挨拶　厚生労働省健康局長　上田　博三	たばこと健康問題（肺の生活習慣病）
「健康の歌」斉唱	「女性の喫煙が胎児に及ぼす影響について」
写真撮影 14：40～14：55	・COPD
講演1 15：15～16：15	群馬大学大学院小児科学分野准教授　望月　博之
「結核予防婦人会について」	**肺年齢→COPD DVD（TBS）** 10：30～10：40
「複十字シール運動」	**歌唱** 10：50～11：35
全結婦連事務局長　山下　武子	歌唱「健康の歌」他
「全国結核予防婦人会30周年DVD」 16：15～16：45	声楽家　松田　敏江　他
講演2 16：45～17：05	**講演6** 12：40～13：40
・ワッハッハッ体操	結核対策…「世界では今」
特定非営利活動法人健康生活研究会副理事長	結核研究所名誉所長　STBJ代表理事　森　亨
浅野　有信	**講演7** 13：40～14：00
講演3 17：05～17：45	～結核のない世界へ～国民運動への展開
結核の日本の現状	STBJ理事　鈴木　幹久
結核研究所対策支援部長　小林　典子	**「カンボジア結核対策スタディツアー」DVD** 14：00～14：20
	班別情報交換会 14：30～15：30
	終講式 15：30～15：50

『わたしの自慢料理』　宮崎県　川並 初子

☆千切り大根サラダ（千切り大根は宮崎県の特産品です）

《材料》

千切り大根	20g	ミニトマト	40g
小松菜	40g	ちりめんいりこ	20g
新玉ねぎ	30g	ごま油	小さじ1

《調味料》

酢	大さじ2
薄口醤油	大さじ1
酒	大さじ1
すりごま	大さじ1

《作り方》

・千切り大根は水につけて戻し、5分間ゆでてから食べやすい長さに切る
・小松菜は色よくゆで、1～2cmの長さに切る
・玉ねぎは薄くスライス
・ミニトマトは洗って4つ割り

フライパンにごま油を熱し、材料をカリカリに炒め合わせ調味料を加える
食べる前に和え、最後にすりごまをふり入れる

秩父宮妃記念結核予防功労賞第12回受賞者

事業功労賞（団体）

酒井　艶子

団体職員
鯖江市愛育会
会長

結核が全国的に蔓延し国民病と言われていた昭和40年代、早期発見・早期治療を促す推進役として、昭和43年に、『鯖江市愛育会』の前身である『鯖江市結核予防婦人会』を設立、県、市と協力し、モデル地区を設定、地区役員が一丸となり検診受診の呼びかけを行い、日中だけではなく夜間の検診も実施した結果、受診率はめざましく向上した。

その後、環境の変化に伴い会の活動内容も見直し、地域住民の健康づくりを支援する組織として、昭和62年に、現在の『鯖江市愛育会』を結成、事業目標に結核予防を掲げ、各世帯に検診受診票等の配布および未受診者への積極的な声かけ、研修会および会報紙による検診受診啓発の実施など、検診受診率の向上等、結核予防に大きく寄与している。

結核予防普及啓発の柱である『複十字シール運動』については、『鯖江市結核予防婦人会』時代から会の主要活動として引き継がれており、地区愛育会が各町内で各戸に声かけするなど精力的に活動を展開し、結核予防の普及啓発に多大な貢献を果たしている。

事業功労賞（団体）

岩田　繁子

団体職員
富山県結核予防婦人会
会長

富山県結核予防婦人会は、昭和47年に結核制圧を目指し富山県婦人会を母体として結成された。平成４年、結核予防に関する知識の向上と地域活動の推進等を目的として、第１回東海北陸地区結核予防婦人会推進大会を開催した。平成12年度から毎年、結核予防推進事業の一環としてショッピングセンターや地域イベント会場等で、支部とともにパンフレットの配布等による啓発普及と複十字シール募金活動を展開している。また、毎年開催される県主催の行事にも参加し、結核制圧のための寸劇披露や、結核に関する啓発パネル展示をおこなっている。その他、会員の知識向上のため、婦人団体中央研修会等の各研修会に積極的に参加し自己啓発に努めている。平成19年度、新たに『結核予防推進委員会』を設置した。これまで県婦人会の厚生委員会と生活委員会等を核に啓発普及活動を行ってきたが、この委員会を軸として、より専心的に活動を推進している。

事業功労賞（個人）

橋本　智子

団体職員
北海道札幌市
北海道健康をまもる地域婦人団体連合会顧問

北海道警察に於いて保健婦として奉職するかたわら、昭和41年「札幌市家族をまもる婦人のつどい」の結成に参加した。そこでの最初の仕事は組織づくりであったが、そのために有給休暇を使い、年間40ヶ所の地区をまわり、町内会の役員に協力依頼するなど努力した結果、３年後には全市の８割に組織の形態がつくられ、結核検診受診率は1.5倍に向上した。一方、複十字シール運動にも尽力し、結成時17万円だった募金額は昭和56年には700万円を超えるほどになった。また、健康をまもる全道組織である「北海道健康をまもる婦人団体連合会」設立にあたっては、結成準備委員会に参画、“連合会”の基盤づくりに大きな役割を果たし、以来30年にわたり副会長、参与、会長として組織の強化に尽くし、結核予防思想の普及、以上、40年を超える活動の功績は誠に顕著であり、後輩の良き手本となっている。

事業功労賞（個人）

中嶋　喜代

団体職員
秋田県北秋田市
結核予防婦人会秋田県連合会　会長

昭和39年、秋田県の結核予防婦人会発足当初から、会員として結核の正しい知識や予防の啓発活動に取り組み、昭和48年に鷹巣町結核予防婦人会会長となってからも、活動現場に率先して参加するなど精力的な活動を続け、昭和60年結核予防功労として秋田県知事表彰を受賞する。

また、卓越した指導力・行動力と温厚な人柄で人望が厚く、昭和61年結核予防婦人会秋田県連合会理事、更に、平成12年からは結核予防婦人会秋田県連合会長として組織をまとめ、長年にわたり秋田県の結核予防婦人会活動の運営・指揮に携わっている。

各種研修会をはじめ啓発活動、更に毎年活発に行われている複十字シール募金活動は、全国でも類のない婦人会主体の活動として認知されており、全国の結核予防婦人会活動の模範となる充実した婦人会活動を確立した功績は大なるものがある。

事業功労賞（個人）

瀬川　智子

団体職員
岩手県紫波郡紫波町
岩手県紫波郡紫波町婦人連合婦人会　会長

平成元年紫波町役場を退職後、婦人活動に携わり、同年岩手県紫波郡紫波町連合婦人会長に就任。以来20年の永きにわたり、福祉、環境、子育て支援、平和問題、青少年健全育成と地域の基盤団体として活動を展開している。平成11年には、岩手県地域婦人団体協議会長（平成20年５月まで）に就任。平成16年には、全国地域婦人団体連絡協議会常任理事（平成20年５月まで）、同年全国結核予防婦人団体連絡協議会副会長に就任、現在に至る。婦人活動に心血を注ぐと共に、多年にわたり、結核予防事業の普及啓発に心をくだき、特に複十字シール募金運動の取り組み等行政力の及ばない分野できめ細かく率先し活動を続けてきた。平成19年には、東北地区結核予防婦人団体研修会が岩手県で開催され担当県会長として重責を果し、大会を成功に導いた。現在は、岩手県紫波郡紫波町連合婦人会長を務めると共に全国結核予防婦人団体連絡協議会副会長として、会長を補佐し全国組織の活力を高め活躍している。

全国結核予防婦人団体連絡協議会平成21年度収支予算書 （1月1日～12月31日）

1．収　入

（単位：円）

科　目	20年度予算額(A)	21年度予算額(B)	対比増△減(B-A)	備　考
基本財産運用収入	0	0	0	
会費収入	5,610,000	5,010,000	△ 600,000	
加盟婦人団体会費収入	3,760,000	3,760,000	0	@80,000×47団体＝3,760,000
賛助金収入	1,850,000	1,250,000	△ 600,000	賛助会費：賛助会費 250,000、教育広報誌製作賛助 1,000,000
委託金収入	0	0	0	
補助金収入	3,500,000	3,500,000	0	結核予防会　3,500,000
雑収入	5,500	34,000	28,500	預金利息（三井住友普通預金・定期預金、警視庁信組定期預金）
借入金収入	0	0	0	
預金取崩収入	0	0	0	
前年度繰越収支差額	7,374,184	5,965,044	△ 1,409,140	
合　計	16,489,684	14,509,044	△ 1,980,640	

2．支　出

科　目	20年度予算額(A)	21年度予算額(B)	対比増△減(B-A)	備　考
給与費	1,200,000	1,200,000	0	
職員給与	1,200,000	1,200,000	0	（事務局長給与費の一部として）@100,000×12ヶ月分
経　費	2,661,864	3,229,104	567,240	
通信運搬費	160,000	160,000	0	郵送料
旅費交通費	1,887,760	1,255,000	△ 632,760	監査旅費 35,000　第2回理事会旅費（12月東京開催：交通費、宿泊費、日当）450,000　近距離 20,000　STBJ会議旅費 750,000
会議費	152,000	152,000	0	理事会雑費、監査雑費
消耗品費	54,020	54,020	0	事務消耗品
管理費	70,584	70,584	0	光熱水道料等　@5,882×12カ月分
支払利息	0	0	0	
ホームページ制作・管理費	0	1,200,000	△ 1,200,000	ホームページ制作、管理費
雑費	337,500	337,500	0	交際費（香典、生花、弔電）　振込手数料　会計士監査
事業費	8,090,380	8,052,379	△ 38,001	
研修会費	3,146,940	4,160,000	1,013,060	地区別研修会負担金 2,600,000（@650,000＊4地区）　職員旅費 50,000（水道橋ー沖縄として旅費・宿泊・日当）
				中央講習会 360,000（メイン会場費半額 217,000　講習会ノート製作費 60,000　旅費 33,000（旅費・宿泊費・日当）
				研修のしおり「すこやかに」製作費（4年毎に計上）800,000
			0	女性の健康週間・健康日本21 400,000
大会費	270,400	233,700	△ 36,700	負担金 200,000　旅費 33,700（旅費・宿泊費・日当）
講師派遣費	0	0	0	
思想普及啓蒙費	4,560,000	3,458,479	△ 1,101,521	健康の輪（3、7、11月号）1,958,479（印刷 1,636,362　発送 220,437　原稿料 25,000　編集会議 76,680）
				普及啓発費（広報資材作成等 1,500,000）
国際協力費	113,040	100,200	△ 12,840	途上国への寄付（2008/11/14現在　1USD（CASHS）＝100.20円　1,000USD）
協賛費	0	100,000	100,000	ストップ結核パートナーシップ日本寄付金 100,000
予備費	0	0	0	
基金繰入金	5,500	0	△ 5,500	
STBJ事業積立	1,000,000	1,000,000	0	
創立40周年事業積立	1,000,000	1,000,000	0	
次年度繰越収支差額	2,531,940	27,561	△ 2,504,379	
合　計	16,489,684	14,509,044	△ 1,980,640	

平成21年度事業計画 （平成21年1月1日～12月31日）

2月18日～19日	中央講習会／こまばエミナース（実施済）
2月20日	会計監査／結核予防会本部（実施済）
3月1日～8日	女性の健康週間（実施済）
3月15日	教育広報誌「健康の輪No.95」発行（実施済）
3月17日～18日	第60回結核予防全国大会の後援と第1回理事会、定時総会、第2回理事会の　開催／東京都
7月10日～11日	北海道地区幹部研修会（家族の健康をまもる講習会）実施
7月15日	教育広報誌「健康の輪NO.96」発行
8月1日	全国一斉複十字シール運動開始厚生労働大臣ならびに都道府県知事表敬訪問 複十字シール運動の実施にあたり後援団体として協力
9月3日～4日	中国四国地区幹部研修会（愛媛県）
9月17日	関東甲信越地区幹部研修会（新潟県）
9月24日～30日	結核予防週間 ・主催団体として結核への関心を高める各種の普及啓発活動を実施 ・全国一斉複十字シール運動キャンペーン
11月12日～13日	東北地区幹部研修会（宮城県）
11月12日～13日	九州地区幹部研修会（福岡県）
11月15日	教育広報誌「健康の輪No.97」発行
（日程未定）	カンボジア結核対策スタディツアーへの会員の参加（予定） ・カンボジア結核対策プロジェクトへの資金援助
（日程未定）	第3回理事会の開催

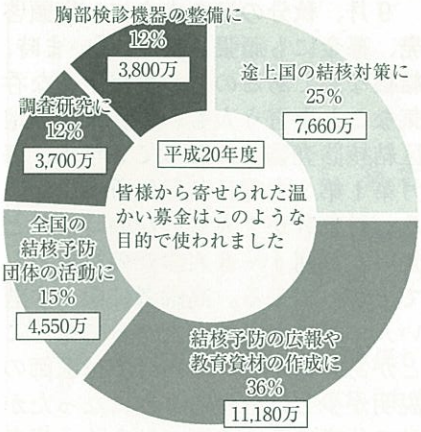
平成20年度複十字シール募金結果報告

平成20年度の複十字シール募金総額は、３億8,969万円となりました。結核予防婦人会の皆さまには、結核予防週間での街頭キャンペーンなど様々な場を通じてご協力をいただきありがとうございました。

経費を除いた益金の使いみちは、下記グラフのとおりです。結核予防のための教育資材の作成と国際協力関連への支出で全体の半分を占めています。

さて、日本の結核は、平成19年に初めて10万対で20を切りました。しかしながら年間約25,000人が発病し、約2,100人以上が結核で亡くなっており、いまだに国内で主要な感染症です。日本は、いまだに中まん延国で欧米諸国と比べ30～40年遅れているといわれています。一方、世界では毎年165万人が結核で亡くなっており、国内の結核対策と同様、途上国（特に東南アジア・アフリカ）の国際協力も重要な課題です。

グラフ



募金総額	３億8,969万5,146円
益金（経費除く）	３億0,912万9,936円

全国婦人会別結果

婦人会組織別に募金額を見ますと、多いところから

①静岡県　1,580万円
②秋田県　1,299万円
③熊本県　945万円
④沖縄県　536万円
⑤高知県　469万円

となっています。婦人会活動による募金は9,938万円、全体の約25％にのぼり複十字シール運動への貢献の大きさを示しています。結核予防婦人会は、結核予防の普及啓発活動において大きな役割を果たしており、“結核のない世界へ”の実現のためには皆様のお力が不可欠です。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

❖ 複十字シール運動開始にあたっての都道府県知事一斉表敬訪問を実施しましょう ❖

平成17年度より複十字シール運動開始にあたって、厚生労働大臣ならびに都道府県知事への表敬訪問を全国規模で実施しています。この訪問によって、複十字シール運動の意義および目的を理解いただき、各自治体から結核予防思想について広く伝え一層の普及を図っていただくことをお願いいたします。

日程につきましては、複十字シール運動開始日（８月１日）を中心とした（ただし、地域の実情にあわせた日程で調整の上）最も効果的な日時に行うこととします。また、知事表敬についてマスコミに向けて積極的にアピールしていただき、報道されることで、複十字シール運動や結核予防への関心が高まることが期待されます。

♪2009年 複十字シール♪

DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2009

JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION

シールデザイン・安野光雅

† 複十字シール
みんなの力で結核や肺がんをなくすために
複十字章は世界共通の結核予防運動の旗印です

† 財団法人結核予防会

わが婦人会の自慢の活動

群馬県結核予防婦人会
会長　野村 時枝

群馬県結核予防婦人会は、今年も8月1日より全国一斉に複十字シール運動が実施されることに先駆けて、県内の結核の現状報告と本運動の御協力をいただきたく、群馬県庁に表敬訪問することとなりました。今年は知事不在と言う事で、群馬県健康福祉部長に『複十字シール運動とは』の説明をさせていただきました。

その内容は…

この運動は、結核や肺がん、その他の胸部に関する疾患をなくして、健康で明るい社会の実現を目指して、複十字シールを通じてこれらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚等を図るとともに、これらの事業を行う資金を集めるために行われている募金活動である事を説明して、県庁内職員より156,000円あまりの募金が集まりました。

又、群馬県では、財団法人群馬県健康づくり財団と、財団法人結核予防会群馬県支部とが主催と成り、アイバンク、臓器移植、整体、技工歯他、体の健康に関するイベントが二日間にわたり、県庁正面玄関ロビーにてくりひろげられます。私たち結核予防婦人会では、幟旗とタスキでアピールしまして、複十字シールとチラシ、そして一番人気のBAN-DAIDを手渡し、一人ひとりに結核に対する心構えを伝え、群馬県民づくりに協力する事が定着してきたように感じます。

又、群馬県女性団体連絡協議会加盟26団体での交流会においては、しっかりと、世界各国の複十字シールと活動、そして全世界の人々と協力しあい、世の中より結核をなくそうとガンバッテいる事を発表し、理解してもらっております。

健康を守る佐賀県婦人の会
会長　三苫 紀美子

少子高齢社会の中で、いかに健康で生活を送る事ができるか、自分の健康は自分で守ろう、元気に輝いて婦人会活動をしたいとの信念で健康講座を開催する計画の第一歩が数年前から始めたトリム体操教室でした。

トリムの意味は、ノルウェーの造船用語で船のバランスを取る事を言い、それを人間の体になぞらえ人生航路を元気に過ごす為に、心身共にバランスのとれた健康づくりを目指す運動を意味するそうで、正にその通りでした。毎週続けているうちに「マッサージ治療に全然行かなくなった」「体の調子が良くなった」「病院に行かなくなった」等の声が聞けるようになりました。岩永愛子先生との出会いで今では県内十ヵ所の教室が開かれている事に私も健康を分けて貰った気持になっています。

医療費が財源圧迫を占める中に、多くの会員が自ら楽しみながら健康を維持できる教室の継続は意義深いものだと自負しています。又、年に一回ではありますが婦人会元気フェスタを開催、歓声と笑いの渦の中で屋内運動会として種目別に参加して一日を過ごしてもらいます。その健康への思いを希望校区で取り組んで頂き、県内十ヵ所で地域元気フェスタとして高齢者・障害者を交えて屋内運動会やグランドゴルフ交流会を実施しています。自分たちの健康を守ると共に地域に密着した活動の婦人会として評価を頂いている事は今後の婦人会のあり方として方向性を見いだす事業展開ができていると喜んでいるところです。

多忙だからと諦めては何も始まらないのではないでしょうか？　情報は満ち溢れています。

自分たちで出来るものを取捨選択して、どしどし挑戦していくという婦人会の姿であり続けていきたいものだと願っています。

健康こそ宝！　健康である自分だからこそ人や地域にボランティアが出来るという自信を持ちながら一回きりの人生に悔いを残さないよう自分の力の限り頑張っていきたいと思っています。健康への橋渡し役として健康の輪を広げることを誓いながら。

雑　感

徳島県婦人団体連合会
会長　横関 ヨシ子

「光陰矢の如し」とか。04年度、ミャンマー・スタディツアーに本県より理事2名が参加させて頂いた。帰郷後、県婦連活動発表の1テーマとして、映像により実に素晴らしい報告があり、800名会員の心を虜にした事がつい昨日のように甦える。

発表者のMさんYさんに刺激を受けた私は近い将来自分も参加して、現地の状況を確かめたい衝動に駆られたが、徳島県より02年にも1名参加していることが分かり、自粛することとした。その後、訪問先がカンボジアに変更されたが、どちらも結核やHIV多発国である。そうこうしているうちに、4年の歳月が経過した。今年こそギリギリのチャンスと思うのだが、新型インフルエンザの全国的発生で開催は見送られるかも知れない。加えて11月は事業やイベントの月でもある。昨年度参加された団の報告が、複十字誌325号に掲載されていた。治安の関係で入、出国に苦労があったが、十分に目的が達成されたとの事で、御苦労様でしたと敬意を表したい。今年は、結核予防会創立70周年の記念の年、8月1日の知事表敬訪問も目前である。例年より少々趣向を凝らしてみてはどうだろう。複十字シール運動も徐々に向上しつつあり喜ばしい。然し、全国上位ランクに位置付けられるのは夢のまた夢…けれども、現状より下がる事は無くしたい。

9月、秋分の日を中心に、街頭啓発、募金にも頑張りたい。「いま時、結核なんてあるの？」まだそんな呑気なことを言う人もいる。県西部地区結核診査委員になって5年め、毎月第1第3木曜日は保健所へ出かける。対象者が1人もいない時は殆ど無い。毎回4～8人診査の対象として上がって来る。高齢者に限らず若い人、子供も名前が上がって来ることがあり驚かされる。今では医師の説明が少しは分かるようになったが私の仕事はそんな事ではなく、患者の人権を守ること。これからも結核撲滅の為頑張って行こう!!